



から『○!※▼』を守る

いよいよ7月！夏到来！と言いたいところですが、先月は史上最も暑い6月を記録し、7月に入ってから寝苦しい夜が続いています。この異常な暑さで疲れが出ている方も多いかもしれません。毎日、ニュース等で呼びかけられていますが、屋外だけでなく、室内にいる場合も適切な対策を実施し、熱中症を防ぎましょう。

そして、暑さでまいていっているのは、人だけではなく、牛も、牧草地も同様です。
今号は、**暑さの影響を受けやすく、経済損失も大きい3つのこと**について、今からできる対策をまとめました。効果的な対策を実施し、今年の夏を上手に乗り越えましょう。

牧草地を守る



すぐできる対策には  (かき氷マーク) をつけました！

永年牧草地の“夏枯れ”を防ぐ

- ▶ 刈り高は地表から15cm以上！
- ▶ 数日後に雨が来そうなタイミングで刈る！
➡ しばらく雨が見込めない時は刈らない！
- ▶ 堆肥の施用により保水力の高い土づくりを！

だよなー。枯らしてしまうより、刈り遅れの方がまだマシカー。
今年は、1番草の収穫から“夏枯れ”を意識すべきだったかもなー。



“夏枯れ”の例



R5.8月 一関市内

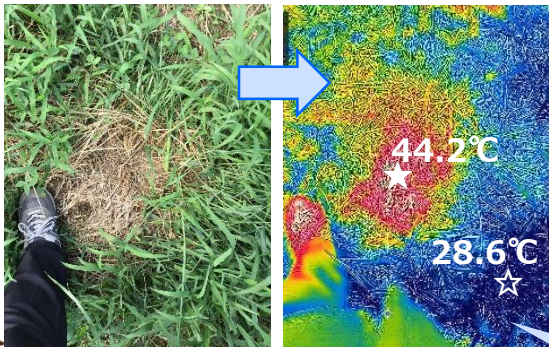
- ・ 2番草収穫：R5.7.21
- ・ 刈り高：地表から約5cm
- ・ 刈取後18日間降雨なし



“夏枯れ”の原因

- ① 地表温度の上昇（地温30℃超が続くと牧草は瀕死に）
地表を覆っていた草が刈られると土があらわになる。
土は暗色で直射日光の熱を吸収しやすいため、
地温が一気に上昇する。
- ② 干ばつ
降水量不足により収穫後の牧草の再生が遅延。
そこに暑さが重なり長期間の地温上昇となる。

R5.8.18 一関市 最高気温35.7℃



☆草がある部分 と ☆草がない部分の
地表温度を測ってみました。



注意

新播草地は“夏枯れ”しやすい！

新播草地の牧草は、経年草地の牧草と比較して、根の張りが浅く弱いため、地表温度上昇の影響をダイレクトに受けてしまうからです。



**夏に新播草地を刈り取るときは、
より慎重に判断しましょう！**

★草がない部分の地表温度は、
気温よりも大幅に高い！
☆草がある部分との差は、15℃以上もある！！



子牛を守る

DG(日増体重)を下げない



ヒートストレス
メーター
(THIメーター)
北里大学HPより

▶ 4～6か月齢の子牛はTHI※ 70未満に！

➡ THI 70以上はDGが低下する

✓通風

換気扇や扇風機の設置

✓輻射熱を防ぐ

✓直射日光を防ぐ

屋根等に寒冷紗を設置

※THIとは

温度と湿度から出す指数

THI 70 の例

温度22度、湿度80%

温度23度、湿度60%

温度24度、湿度45%

温度25度、湿度35%

▶ 粗飼料は3～5cmに切断

0～3か月齢の子牛の発育は、暑さによる影響が少ないと言われています。

効果的な通風

❖ 風は牛の肩から首に当てる

→最も汗腺が多く涼しく感じる

❖ 風速を上げる

→換気扇の台数を増やす、換気扇を掃除する

❖ 冷風を取り込む

→隣接する林や山を風上に、林がない時は北側を風上に

❖ 通風は夜間も継続

→上がった体温を翌朝までにしっかり下げる

親牛・子牛 共通

風速 1 m/秒 → 体感温度 6℃低下

〃 2 m/秒 → 〃 8.5℃低下

受精卵移植の受胎率は暑さの影響が少ない。

夏は湿度が高いから、**体感温度22度**を目指せば THI がほぼ70になるね。
ということは…

気温28度以下の時は風速1m/秒
気温28度超えの時は風速2m/秒以上が必要ということか！

繁殖サイクルを回してガッチリ ~見えない儲けをわしづかみ！~

第2回は、繁殖の記録を取ることで空胎期間を短縮しよう！という内容でした。

忙しくても初回・2回目発情を見逃さないように「**記録**」したら、次は、

確実な発見を目指して「**観察**」しましょう。

第3回 発情発見

発情兆候として、外陰部の腫脹・充血【図1】、粘液の漏出、乗駕行動（スタンディング）【図2】等があります。

1日に朝夕の2回、30分ほどの時間をかけて観察することで、発見率が高まります。草地作業等がある時期は特に大変ですが、可能であれば他の作業の片手間ではなく、**観察のために時間を確保**しましょう。**普段の行動を把握**しておくことも発見率向上のためには大切です。

フリーストールやパドック等、牛が自由に動ける飼養環境では、テイルペイント【図3】の活用も効果的です（ICT関連については第4回で！）。

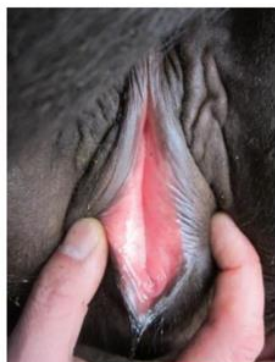


図1 外陰部の腫脹・充血



図2 乗駕行動（スタンディング）

マウンティング（乗駕すること）は非発情牛にも見られますが、**スタンディング（乗駕を許容すること）は発情牛にしか見られません。**



図3 テイルペイントを塗布した牛
テイルペイントは、**スタンディング**によって剥がれます。

県飼養管理
マニュアルの
ダウンロード

